

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査書

都道府県名	岐阜県	事業実施主体	飛騨市	地域再生計画名	飛騨市「豊かな自然環境の持続と安定した暮らしのまちづくり計画」
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	飛騨市 基盤整備部長 青木孝則		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標 1	指標 2	基準年度	H26	年度	中間実績	基準年度	H31			
	指標 1	搬出間伐量の40%増加	4,073m3	H26	5,300m3	H29	5,998m3	5,700m3	H31	○	林道整備やそれに通じる市道の整備により、中間目標値を達成できた。
	指標 2	市道の危険箇所40%解消	22箇所	H26	16箇所	H29	16箇所	13箇所	H31	○	市道危険箇所22箇所の内、6箇所を実施し16箇所に減らすことができた。
	指標 3	エコ・グリーンツーリズム観光客の31%増加	38,000人	H26	40,000人	H29	49,663人	50,000人	H31	○	林道整備やそれに通じる市道のアクセス向上により、エコグリーンツーリズム観光客が増加し、中間目標値を達成する事ができた。
	指標 4	林道橋梁点検診断の実施率	0%	H26	100%	H29	87%	100%	H31	△	林道橋梁点検診断は中間目標値を下回ってしまったが、H30年度に100%達成する見込みである。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1										
	指標 2										
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価					
			計画	中間年度 (H29)	最終実績見込み						
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）		1.78km	1.49km	1.78km	市道の危険箇所解消の整備により、アクセスの改善や交通安全の確保が図られ観光客の増加につながったと考えられる。さらに交流人口の増加と安定した暮らしのまちづくりのため、市道の整備を行う必要がある。					
	林道整備事業（整備延長）		0.60km	0.04km	0.60km	林道開設事業について、これまでは設計業務と軟弱地盤対策を行ってきた。今後は開設工事延長が見込まれ、これまで森林施業が困難であった地域について充実した森林へのアクセス改善が図られる見込みである。					
	内林道の保全対策53箇所		53箇所	46箇所	53箇所	林道の保全対策（橋梁点検）により、林道の安全対策が進められている。					
その他の事業	森林整備地域活動支援交付金事業		森林施業の集約化に必要な森林情報の収集、境界確認等の諸活動に対して支援する。			平成27年度11団地1,279ha、平成28年度10団地1,116ha、平成29年度6団地919haに対し、森林情報の収集や森林調査、説明会の開催など支援を行うことができた。					
	森林環境保全整備事業		面的にまとまって計画的に行う搬出間伐等の森林施業と、これと一体となった森林作業道の開設を行う。			平成27年度 間伐7団地109ha、作業道開設8路線3,593m、平成28年度 間伐7団地58ha、作業道開設2路線1,586m、平成29年度 間伐1団地18ha、作業道開設2路線2,735mを実施した。林道整備と併せて森林作業道を開設し、より充実した森林へのアクセス改善が図られた。					
	環境保全林整備事業		既存の林業経営では採算の合わない飲用水や農業用水等の水源地域や渓流域、急傾斜地等の森林の整備・保全を推進するため間伐等を支援し、環境を重視した森林づくり、森林の公益的機能の維持増進を図る。			平成27年度 河合町ニツ屋地内で32haの間伐を実施し、環境を重視した森林づくりを支援する事ができた。					
	里山林整備事業		野生鳥獣による被害の軽減など地域住民の生活環境の保全や生物多様性の保全を図るため里山林の整備・管理を支援する。			平成27年度 不要木の除去3箇所14ha、バッファゾーン等の整備1箇所2ha、修景等の環境保全2箇所16haを実施した。生活道路の周辺や農地周辺の生活環境整備を支援する事ができた。					
計画外で独自に実施した事業											
④評価方法	飛騨市総合政策審議会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。										
⑤中間評価の公表方法	飛騨市ホームページに掲載										
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に実施し、森林整備と交流人口の増加を目標としている。間伐による森林整備を実施することにより、災害に強い森林づくりを進めることができた。手入れされた森林資源や天生湿原などの三温原を巡るトレッキングや廃線となった神岡鉄道を利用したレールマウンテンバイクなどのエコツーリズム・グリーンツーリズムにより観光客が増え、交流人口の増加による経済効果が得られた。また、市道の危険箇所の解消と林道橋梁点検を実施し、安全な生活環境整備を進める事ができた。										
⑦今後の方針等	本地域再生計画において、事業は概ね順調に進んでおり、全ての指標において目標が達成できる見込みである。よって引き続き本地域再生計画に沿って事業を推進していくこととする。										